

さくらそう通信

VOL.33 2024.3.29



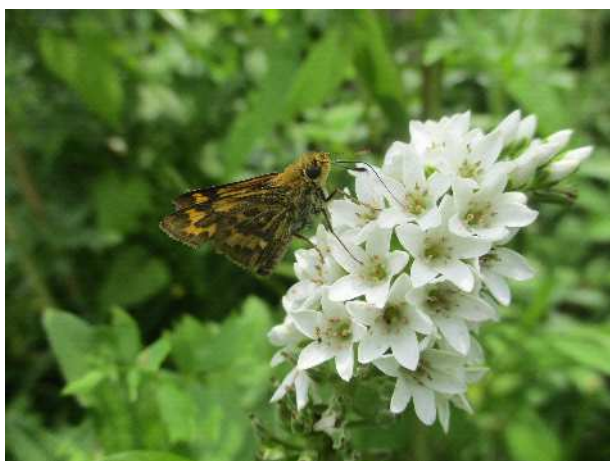
サクラソウ自生地の昆虫達

田島ヶ原サクラソウ自生地では、春にサクラソウを含めた様々な植物が見頃を迎え、多くの人々が見物に訪れます。自生地に見られる植物には、絶滅が危惧されるような植物や、見られる場所が少なくなっている植物も多くあり、また、春以外の季節でも様々な貴重な植物を見ることができます。

サクラソウ自生地は、このように多くの貴重な植物が自生することからもわかる通り、都市近郊にあるにもかかわらず、比較的良好な自然環境が保たれている場所であることが分かります。当然、こうした良好な環境は、植物以外にも多くの生物が利用し、複雑な生態系を築いていることが想像されますが、自生地の植物以外の生物は、あまり注目されていないように思われます。

今回は、そうした植物以外の生物の中でも、昆虫に着目し、そこから生態系を垣間見てみようと思います。

サクラソウ自生地に多くの花が咲く季節には、花を訪れる昆虫を多く見つけることができます。こうした昆虫は、植物の蜜や花粉などを求めて花を訪れ、その際に花粉を運ぶことで植物の繁殖を助けることから、自生地の植物達には欠かせない存在になっています。サクラソウも繁殖に昆虫の助けが必要な植物の一つです。



▲オカトラノオ属の一種から吸蜜する
キマダラセセリ



▲ニガクサから吸蜜するハラナガツチバチの仲間

花を求めて植物を訪れるほかにも植物を利用する昆虫が訪れます。自生地の植物を幼虫の餌にするために訪れるジャコウアゲハなどは、自生地内でウマノスズクサに卵を産み付け、それを餌にして成長します。さらに自生地内でサナギになっている様子も見るすることができます。



▲ジャコウアゲハの幼虫の餌になる
ウマノスズクサの花



▲ジャコウアゲハの卵



▲ジャコウアゲハの蛹



▲ジャコウアゲハの成虫

その他、変わった見た目と生態を持つものも現れます。マルクビツチハンミョウは、幼虫がハナバチの仲間に寄生することが知られている昆虫で、多くの卵を産み、その卵から多くの幼虫が生まれるが、ハナバチに寄生するための道のりで多くが成長できず、成虫になるのはごく一部と言われます。ハネは退化して飛ぶことができず、大きな腹部を引きずるように歩きます。



▲自生地を歩くマルクビツチハンミョウ

このように、サクラソウ自生地ではあまり注目されない昆虫類にも様々な生活史を持つものがあります。様々な生態を持つ生物が生息できるということから、サクラソウ自生地の中に多様で複雑な環境と生態系が出来上がっていることが想像されます。

今回紹介した昆虫以外にも様々な種類の生物が生息していることを見ることができます。サクラソウ自生地を維持していくことはこうした生物たちの世界を守っていくことにもつながっていきます。今後も、こうした生物たちに目を向けていきたいと思えます。